

平成 30 年度第 1 回富山県公立大学法人評価委員会 議事概要

1 日 時 平成 30 年 7 月 19 日 (木) 13:30～14:40

2 会 場 富山県立大学 本部棟 7 階教授会室

3 出席委員

〔五十音順、敬称略〕

氏 名	役 職 等	備 考
林 幸秀	国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター 上席フェロー	委員長
福田 敏男	名城大学工学部教授 名古屋大学名誉教授	委員長職務代理
大谷 渡	(一社)富山県機電工業会 前会長 YKK AP(株) 取締役副社長	
堀 仁志	堀税理士法人 代表社員 公認会計士	

4 議 事

平成 29 年度の業務実績に関する評価について

5 会議の概要

- ・司会が開会を宣し、総合政策局長より開会の挨拶
- ・司会より、林委員長に議事の進行を依頼し、以後の進行については委員長が行った。
- ・委員長より、(評価の対象である) 法人が本日の委員会に最後まで同席することについて、委員の了承を得た。

議事事項 平成 29 年度の業務実績に関する評価について

＜法人説明＞

資料 1、資料 2 などにに基づき、平成 29 年度の業務実績の概要、法人側の自己評価等について説明

＜事務局説明＞

参考資料 1 などにに基づき、評価委員会の評価(案)を取りまとめるにあたっての手續、評価の際の参考となる事項等について説明

(委員長)

- ・参考資料 1 には、法人の自己評価をもとに、当委員会において定めた実施要領等に基づいた形式的な評価が記載されているが、各委員の意見、質問等を求める。

(委員)

- ・ 第1の「教育」に関していえば、県内定着について入口から出口まで戦略的に取り組んでいる。
- ・ 中期計画の策定の際に、私からは年度ごとに数値での進捗状況を出すようお願いしたのだが、県立大学は数値でしっかりと結果を出している。定性的な評価でごまかしていない。
- ・ 評価はAから引き上げても良いのではないか。

(委員長)

- ・ 第1の「教育」に関して、法人の自己評価では76項目のうち75項目がⅢである。これで引き上げることに問題は無いのか。

<事務局>

- ・ 法人の自己評価をもとに機械的に当てはめればAの評価になるが、引き上げるかどうかについては、ご議論いただいたうえで、評価委員会で判断していただくことになる。

(委員長)

- ・ ということは、自己評価でほとんどがⅢの評価であっても、引き上げることについては、評価委員会に裁量権があるということで、法人の実績を見てそれ相当と判断できれば、引き上げることが可能ということである。

(委員)

- ・ 他の公立大学なども見ているが、今の時代、富山県立大学ほど意欲的な大学はない。野心的というか、定員を増やしたり新校舎を建設したり、入口出口対策もしっかり行っており、もっと高く評価しても良いと思う。

(委員)

- ・ 県立大学は非常に勢いがある。実務的には教員の確保など法人は大変苦労したのだと思うが、新しい学科・学部など着実に実現してきている。
- ・ 法人のそういう姿勢については高く評価したい。

(委員)

- ・ 評価委員会としては、法人の取組みについて、評価すべきところはしっかりと評価するべきである。

(委員)

- ・ 私は計画当初から厳しいことを言ってきたのだが、大抵は定性的な形でごまかしてしまうことが多いが、法人は数値をもって実績を出してきているということは、立派な取組みであり、大学でこういうことをやるのは、なかなか難しいことだと思う。
- ・ 第6の「自己点検評価及び情報の提供」に関する目標についても、評価を上げてよいと思う。

(委員長)

- ・ ここまでの議論を振り返ると、委員の皆様のご意見の方向性は同じであると思う。
- ・ 第1の「教育」と第6の「自己点検評価及び情報の提供」については、評価をAからSにすることになるのかなと思う。
- ・ それから、第3の「地域貢献」に関して、数値目標を見ると、そもそもの目標値が低いのではないかと議論もあるかと思うが、「公開講座の受講者数」、「地域課題解決に向けた企業、NPO等などの連携団体数」や「留学生の在学者数」など、29年度実績を見ると、評価できるのではないかと。これもSに引き上げる候補になると思う。

(委員)

- ・ 「地域貢献」の評価についても、ぜひ引き上げるべきである。他にも引き上げるものがあるのだろうが、この3つが妥当ではないか。

(委員)

- ・ 「地域貢献」については、実績を見る限り高く評価しても良い。異論はない。

(委員長)

- ・ 委員の皆様は、私も含めて高く評価しており、第1、第3、第6の大項目についてAからSに引き上げることに、事務局として意見は無い。

<事務局>

- ・ 事務局がSという評価にすることはできないが、評価委員会でご議論された結果、Sという評価をされればSということになる。
- ・ 本日ご欠席の委員について、7月18日に事務局と法人から事前に説明させていただいており、その際のご意見をご紹介させていただきたい。
- ・ 県立大学はエネルギーにがんばっており、歴史は浅いが、かなり県内に定着したのではないかと。
- ・ 施設設備などについて女子学生への配慮は引き続きお願いしたい。
- ・ 看護学部の生徒が射水キャンパスを利用することだが、女子学生と男子学生が一緒になった方が大学の活気がでる。非常によいこと。
- ・ 危機管理については、いざというときの備えは常におこななければならない、常に危機感を持っていることが大切だが、それでも何が起きるか分からない。
- ・ (今年起こった) メールトラブルの件については、不可抗力の部分もある。
- ・ 大学院への進学率が低いのは、今は人手不足で就職もよいので仕方がない部分もある。

(委員長)

- ・ そうすると、第1、第3、第6の大項目については、評価をAからSに引き上げることに、最終的には第2回目の評価委員会で決定することになるが、その方向で進めたい。

- ・ それから、先ほどの欠席された委員のコメントにもあったが、評価書には具体的なコメントも記載する必要がある。
- ・ 評価書で特に触れておくようなこと、特に言っておきたいことはないか。

(委員)

- ・ 県内就職率については、今後も苦勞されると思うが、県外出身者が多くなっている中で、これだけの数値を出していることについて、インターンシップの取組みとか法人は色々と努力している。
- ・ 入学者の確保についても、他大学との取り合いになるのだが、新幹線効果などを活かして攻めている。
- ・ 科学技術研究費についてもしっかりと確保してきている。

(委員)

- ・ 私も機電工業会の仕事などもやっていたので実感しているのだが、自分たちのやっていることがなかなか外には伝わらない。県立大学はこれだけ色々良い取組みをしているのだから、情報発信についてもっと積極的に、繰り返しPRしてほしい。

(委員)

- ・ 県立大学は非常に魅力的であり、その魅力をタイムリーに色々な形で、県とも協力しながら情報発信してほしい。

(委員長)

- ・ 各委員が言われたことは非常に重要な留意点である。評価書に盛り込んでいただきたい。
- ・ 整理すると、項目別評価については、大項目の第1「教育」、第3「地域貢献」、第6「自己点検評価及び情報の提供」については、評価をAからSに引き上げる。
- ・ 評価書の記述部分においては、本日の各委員のご発言や欠席された委員のご発言の内容に留意し、事務局において次回の評価書案を準備していただきたい。
- ・ 第2回目の評価委員会において、最終的な評価を決定したい。
- ・ これにて、本日の議事は終了します。ありがとうございました。

(閉会)